おさげの女と

高校生活

片耳豚

R18

成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

らんま
VS
エロ仙人

男になったり女になったり急がしい乱馬
呪いを解くために高名な仙人を訪ねるが
なんとこの仙人！
とんでもない好色エロ仙人だった！
というかまあ、いつものカンジで！

「ホントにこんなんで呪いが解けんのかよ……」
「フォフォフォフォ まず、は精神修練じゃよ 雑念を捨て何事にも 動じぬ心を養うのじゃ」
「へいへい……」
(なんか胡散臭いんだよな…… この爺さん……)
「いいかの? 何があっても動じてはならんぞ」
(フホホッ……これは僥倖じゃて! 斯様に絶品そうなボデーのオナゴが まさか自分から訪ねてくるとはのぅ!)
「ええか~平常心平常心じゃぞ~」
(フヒヒ……これはじっくり丹念に 躾てやらねばならんのぅ~)

ブチッ
「んなぁあああっ！」
「てててめぇ！なにしやがるっ！」
「ほれほれ平常心じゃ、こんなことでいちいち心を乱しては呪いを解くことなぞ出来んわい」
「てっ……めぇっ マジにこんなんで」
「当然じゃワシ仙人ウソツカナイ それに一生そのままでいるつもりかの？」
「ぐっ……くそ――」
「そうじゃそうじゃ…… そのまま静かに動いてはならんぞ」

モニュン

「――んっ……ふぅ……っ」
（くそ……このジジイ……）
「胸を弄られた程度で狼狽しておるようでは
解呪なんぞとうていとうてい……」
（ふひょー！服の上からでもなかなかじゃったが
直に触れればこれほどとは思わんだ！
嬉しい誤算！）

ムニュムニュ

「や――っ……くそっ……」
（ねちっこすぎるだろうがっ
このクソ仙人……！）

「オイっこんなんでほんとに――」
「ふむふむ……この程度では
修練にならんの――」
どれ……少しばかり強めにしてみるか
「――！」
（強くって……ちょっとまて――）

くに、こり、くに、こり

「〜〜〜あっ……ひっ！」

「やっ……まっ〜〜んんぃ！」

（ち、乳首コネ回され……なん……だ？体から力が抜けちまう―）

「そうらまだまだいくぞい」

「まっ……へぇ！」

てめぇ――なにしやが……っ」

「ついでにツボも押しとくかの」

「んんひっ――おっおっ……なん……らぁこれぇ――」

（ふひょひょきいとるきいとる♪淫蕩のツボベタ押しで淫乱乳の一丁上がりじゃこのまま畳み掛けて乳だけは今日中に堕としておくかの）

ヌチャ ニチャ
「んひゅ……ネロォ……んっ……くちゅ……あはぁ……」
(むふふ……だいぶ仕上がったが加減してあるから乳イキはできまい)
「ようし――今日はここまでじゃ明日も続けるからしっかり体を休めるんじゃぞ」
んちゅ
はぁぁ
は―♡
「わ……わかっひゃぁ……んちゅ」
(相当きいとるのぉ――もっとも火照った乳では満足に寝られんじゃろうがなグフッ……これは明日からが楽しみだわい)
初日終了――翌日もたわわな双球をねちっこくたっぷりとねぶられる「らんま」狡猾なエロ仙人の搦手で徐々に追い詰められていく

修練3日目
「おいこらジジイ！これホントに呪い解くのと関係あるんだろうなっ！」
（いや……どー考えてもないじゃろ）
「無論じゃとも……精神の練はある程度修まったのでな今日からは呪いに抗するため直接肉体を鍛えていくことにする」
（ムフォフォフォ！なんたるけしからん体じゃい！これだけ嫌がってもなんだかんだで着てくるあたり乳嬲りがきいとるのぉ！）

「ちっくしょぉ……こんなカッコで
こんな……んんっむぅっ！
縄食い込んで……ぐっ……」
（ハァ…ハァ……
やっぱりうまく体に力が入んねぇ
こんな縄程度で動き止まっちまうっ
それになんか……擦れるたび
――くそっ！負けっかよぉ！）
んんっ♡
んっ
ズリズリ
「ハァ……ハァ……
まだ終わんね……のかよぉ」
ぐちゅ♡
ぐちゅ、ずりゅ、ぐちゅ、ずりゅ
（うあぁぁあっ――こんなのムリだぁ……
縄喰い込むたびに背筋痺れ……てっ）
「ちょ……っとまって…くれ…
少し休……ませ……」
――♡
「しかたがないのぉ……
――どぉれ」

「ほぉれほれ――仙人特製指圧で疲れをとってやろうかの！」
「まっ――まっへぇぇぇぇ！」
「遠慮はいらんぞい！そらそら、ここじゃろう？ここがコリコリにこっておるんじゃろう？」
「やめっ……あっあっあっ……」
ねちゃ
ねちゃ
あっ♡
あっ♡
グニュクリュ！
「んひゃあああっ」
コリコリコリコリ
「あ――ひあぁっぁああ
やぇ……ろぉぉぉ」
クニュクニュクニュ
「やめ――いじくる……なぁあっ
俺の――あひょこおおぉぉ！」
（ディユフフフ――甘露甘露！
念入りに抵抗出来なくしたんじゃ
「らんま」ちゃんのけしからんボディ
隅々まで堪能させてもらおうか）
くちゅ♡

(そろそろ本命の下ごしらえでもしておこうかの)
「ほおれどうじゃ?仙人の太摩羅は特別じゃからの火照った体に良くきくじゃろ」
「んひゃぁあ!」
ずむ、ずむ
「てめ……ひょんなもん こすりつけ……へぇえっぇえ」
(ヤバイヤバイヤバイ! 太……摩羅? 突かれたところが おかしいっ……あたまボォ……てぇ 気持ちよすぎてわけわかんねぇ……)
んあひっ♡
「なぁに、これも修練の一環よ!」
(イキ焦らしがきいて抵抗出来まい フヒヒ——太摩羅で直接 ツボを刺激すれば効果は倍増! ワシのモノなしではいられん体に 躾てくれる!)
あぁあ♡
ずむ、ずむ、ずむ、ずむむ

4日目
はっ♡
はっ♡
はっ♡
ビュク、ビュク
「ん――ほぅ……！
グフフ……しかしこれは
まるでワシの摩羅に
あつらえたような乳じゃのぅ」
「はぁーーはぁーー」
（くそぉ……こんなジジイに
俺の胸好き勝手されてんのに……
ジジイの……もので体に触れられると
気持ちよすぎて力抜けちまう……）
ぐぷ
ぐぷ
「これも修行！
ワシの摩羅より迸る仙水を浴び
それをよくすり込むことで
体内の気脈を整えるのじゃよ」
（ククク……もっとも、ワシ専用の
雌としての操気じゃがの）
「ちょ……調子……
のってんじゃ……ね……ぇ……ぞ」
「こらこらイカンぞ
そのような口をきいては
折角の修練が台無しじゃ」
んん♡
「しゅりこむぅ……
ふじゃけ……んなぁ」
はーー♡
ぐぷ

ビュル、ビュル
「きゅひぃ……！」
「もうひゃめ……ひゃめろぉ
汁出すなぁ……かけられたとこ
あひゅくて……おかひくなるぅ
おれの体ぁ……クソジジイの
太摩羅に逆らえなくなるぅ」
（すっかり摩羅汁の虜じゃのう
ムホホ――これなら明日にでも
ワシ好みの雌猫に仕上がりそうじゃて）
（こんな……のぉ…呪いとかんけぇねぇ……
だめだ……ジジイの思うツボに……
あぁくそぉ……でも……熱くて
気持ちよすぎるぅぅ……）
エロ仙人にガッツリだまされたことに
気付くが時既に遅く
すっかり摩羅汁の虜にされてしまう「らんま」
逃げ出すこともできずに
結局一晩中その体を精液づけにされてしまう
あぁ
ヤ

5日目
「気がついたかの？」
「は……？
んなっ！なんで俺縛られてんだ？」
「なに――今日は修行の仕上げじゃよ」
は――♡
は――♡
（あのまま気を失って――！
このジジイ仕上げって何を……？）
ムチュィ
「くひいいいっ！」
「むふぅ！このトロみ！
今日まで待った甲斐があったわい！」
むぎゅ♡
「ワシの太摩羅を尻穴で存分に味わい
屈服しなければお主の修行は完遂じゃ」
（ククク……もっとも
ワシのモノのなるまで
続けさせてもらうがなぁ）

ムチュン
「んんひゅぅううう」
「あふひぃいい！
やめ……あふぁあっ」
（なんだこれ――こんなジジイの摩羅に
尻穴触れられるたび電気走るぅ）
「とまっへぇえええぇ」
（無理だこんなの――こんなのすぐ――）
やめっ♡
「ほれほれどうじゃ
屈服したらお主は一生
ワシの摩羅を慰める
雌弟子奴隷になるのじゃぞ？」
やっあ♡
あっ♡
「やぅ――あっあっあっ
あふあぁぁぁぁぁぁ
つくなぁもうつかないでくれぇえぇっ」
（なるっなるっなっちまうぅぅぅ
ジジイの太摩羅に屈服させられるぅぅぅ
弟子奴隷にされちま――
ちくしょう……なんでこんなに
気持ちいいんだよぉおお！）
ムチュ♡
クチュ♡

はじめこそ耐えていた「らんま」だったが
仙人の太摩羅が精液を滲ませ始めたところで
――限界が来た――
ぬぽっ♡
アナルの間際を卑劣な調教汁で
汚された瞬間に決壊――
深い尻穴アクメを決めさせられ
遂に屈服――
あぁぁ♡
あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡
後はもうアナル泣きで弟子入りを誓わされる
エロ仙人の摩羅に嬲られるがままに
挿入を許し泣き悶えを強制される
突かれてはイキ――
抜かれてはイク――
老獪な仙人の摩羅テクに
卑猥な言葉を仕込まれて
更に鳴かされる――

「んひゅうううっ」
「ほれほれ、らんまケツ穴イキしたらどうするんじゃ？」
「あひゅあ……いいまひゅう……らんまはぁ……お、お師匠様の太摩羅にケツ穴を躾られてイキましたぁ……」
「フォフォフォ可愛い弟子よそぉらまた仙水を褒美にくれてやろう出しながら突きまくってやるからのケツ穴で飲み込めぃ」
「ああぁあ……まらぁ…まらぁ……お師匠様の太摩羅すごいぃいい俺のケツ穴ぁ……中毒になってるぅ出されるたびにイッテ……あぁぁあまたきたぁっぁあ」
「修行ぉおぉおぉぉケツ穴修行凄すぎるぅうぅずっとするぅ！俺ずっと――
あひゃあぁぁぁ！」

エロ仙人に弟子入りしたその日から
昼となく夜となく淫熟ボディを
ねっとりと調教され続けた「らんま」
すっかり弟子奴隷として躾けられ
ことあるごとに修行と称した
ケツ穴弄りを受けることになる
ところがエロ仙人、連日連夜の
ハッスル摩羅フィーバーで
メキメキ衰える
そんなこんなで一ヶ月――
エロ仙人、腎虚と高血圧が一気に来て
あっさりと腹上死
なんだかんだで
解放された「らんま」だったが
ジジイと仙人は二度と信用しねぇ――とのこと
あっ♡
あっ♡
あっ♡
は～♡
は～♡
ゴポ♡
ゴポ♡

上は大水、下は大火事
でも――真ん中は不定形
四方八方に触手を伸ばし
仔牛五頭をペロリと平らげる
ってなーんだ？どうも片耳豚です。

もうお気付きのこととは思いますが
らんま本なのですね。
お手にとっていただきありがとうございます。
なんだかんだで結構だしてますねお下げの女本。
エロい特殊能力を持ったナニかって便利でいいですよね。
完全にこっちの話ですが――。

そんなこんなでらんまも四冊目ですが
移り気な自分としてはなかなかどうして続くもので、
やや吃驚です。
それだけらんまのポテンシャルが高いということかもしれません。
キャラクターとして超カワイイってことですねぇ。

近況としては我ながらちょっと引くくらい何もありません。
本当に――なにも――なにも――フジコ……フジコ。

まぁそんなカンジでマモー落ちです。
相変わらずの無内容が達成できたところで、このへんで。

機会があったらまたどこかで、サムイヤでした。

PS：のんのん村に移住したい。

奥付
発行／片耳豚
発行日／2014.08.17
印刷／コムフレックス
連絡／katamimibuta@yahoo.co.jp

おんなの女

高天原